

2015年9月10日の鬼怒川氾濫 常総市災害ボランティアセンターでの情報利活用について  
国立研究開発法人防災科学技術研究所  
社会防災システム研究領域 災害リスク研究ユニット 研究員 水井良暢

1. 災害対応までの概要

茨城県常総市において2015年9月10日(木)午後到大規模な水害が発生。常総市に隣接するつくば市社会福祉協議会(以下:社協)を経由し、常総市社協から支援要請を受け、防災科研災害リスクチームは災害ボランティアセンター(以下:災害VC)にて技術支援・調査を開始した。常総市の位置:<https://goo.gl/maps/EAEXttLf3mK2>

2. 災害VCでの活動

12日(土)から活動調整を行い、14日(月)の市災害VC開設時からeコミュニティプラットフォーム(以下:eコミ)をベースとした災害VC運営支援キット(以下:VCキット)を導入し、災害情報の利活用支援を実施した。また同時期に開設された県(行政)災害VCにもキットを導入し、県市の両者間での情報共有を実現した。

3. 現地の状況と利活用されたシステム

発災直後の災害VCでは、組織構築・人員確保・業務遂行などさまざまな運営面で混乱しており、作業効率が悪い状況であった。そこで、災害VC運営作業入口のボトルネックとなる「被災者から出される膨大なニーズ情報の処理」の効率化をVCキットにて行い、全体運営の迅速化を目指すこととした。

VCキットとは、東日本大震災(2011)、茨城県つくば市竜巻(2012)、山形県南陽市豪雨(2014)、広島県広島市土砂(2014)、長野県白馬村地震(2014)での利用検証を経て、災害VCを円滑に運営するために「データ管理・表示・情報共有・受発信」機能を組み合わせたeコミのセットである。以下のサイトは一般向けのページである。運営側ページは関係者のみ利用可能となっている。

常総市災害VC情報支援サイト(VCキット):<http://vc.ecom-plat.jp/ibaraki/>

4. 利活用の作業内容

現在(2015.10.27)も実施されている作業は、ニーズ情報に関して「情報入力(データベース化)」「活動場所のマッピング(見える化)」「ボランティア派遣の案内地図印刷」「活動の状況管理(作業状態、内容、被災者の健康など)」が主である。

5. まとめと今後の課題

この作業によって、次の効果が認められた。

1) 情報連携、表示共有で2度手間防ぐ

- 2) 地図表示と検索機能を活用し作業効率 UP
- 3) データベースが作成できる（現状把握し計画に反映、報告に利用、活動履歴の確認）
- 4) 県市の公開情報を共有できる（県災害 VC、道路、トイレ、避難所など）

今後の課題としては、「人材の育成と確保」「円滑な作業の引き継ぎ」「運用体制とルールの事前準備」「個人情報取り扱い意識を高める」「県・市・団体の事前連携強化」があげられる。

## 6. 関連情報

常総市役所から常総市災害情報マップが公開されている。

<http://map04.ecom-plat.jp/map/map/?cid=2&gid=0&mid=11>

研究所での、現地調査や、観測情報および注意報・警報・対応・備え等に関する情報を以下のサイトで集約している。

<http://ecom-plat.jp/nied-cr/group.php?gid=10129>